

# 砂防ふるくしま

第18号

福島県砂防協会機関誌

郡山市立明健中学校1年

小林 こばやし

聖香 せい かさん



国土交通事務次官賞(絵画・版画の部)

平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール

みんなで防ごう土砂災害  
**土砂災害防止月間**  
**6/1→30**  
 かけ崩れ防災週間 6/1▶7

**雪崩防災週間**  
 12月1日→7日

## CONTENTS

福島県砂防協会長あいさつ .....	2
平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 .....	2
平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 絵画・版画の部 .....	3
平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 ポスターの部 .....	4
平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品 作文の部 .....	5
「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み .....	6
土砂災害警戒区域の指定状況 .....	8
編集後記 .....	8

# 福島県砂防協会長あいさつ



福島県砂防協会長

只見町長 小沼 昇

会員の皆様には、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから本協会の運営にあたり御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

昨年は、金山町小栗山地内の牛兵衛沢で発生した土砂災害を始め、台風4号、台風9号などにより、浜通りを中心にがけ崩れの被害が多数発生し、平成18年に引き続き災害発生件数が多い年でした。

特に牛兵衛沢では、現在も避難生活が続いており住民の方々の御苦勞は大変なものと察します。また、台風9号では鮫川村において家屋が国道289号に流出する災害が発生しております。

幸い、人命が失われるという最悪の事態は発生しませんでした。が、不断の備えが重要であると改めて感じております。

被害に遭われた住民の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、今後も引き続き土砂災害から地域住民の生命・財産を守るため、ハード対策である砂防関係事業の促進と防災訓練実施、地域防災計画の充実などソフト対策の拡充に努めてまいりたいと考えております。

さて、本協会の重要な事業の柱として土砂災害防止に関する啓発活動を実施しておりますが、この一環として国土交通省と県が毎年6月に実施している「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクールの作品募集で小・中学生から多くの作品が寄せられております。厳正な審査の結果、小林聖香（こばやしせいか）さん（郡山市立明健中学校1年）の国土交通事務次官賞をはじめ、多くの作品が受賞されました。

本年度の作品も、土砂災害から身を守るために日ごろからの備えと注意すべき心構えについて、広く啓発するものとなっており受賞された皆様に対し心からお祝い申し上げます。

本協会としましては、応募された作品と同様に、更なる啓発活動に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き会員の皆様と関係機関の格段の御協力をお願い申し上げます。あいさつといたします。

## 平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

国土交通省と福島県では、土石流・地すべり・がけ崩れ等の土砂災害から、かけがえのない生命と財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関して地域の皆様の御理解と御協力をいただくために様々な行事を行っております。

この行事の一環として、明日を担う小・中学生を対象に「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文

コンクールが行われました。本県においては、多くの応募の中から11作品が福島県砂防協会長賞に選ばれ、そのうち7作品が中央審査会に推薦されました。審査の結果、小林聖香さん（郡山市立明健中学校1年）（絵画・版画の部）の国土交通事務次官賞のほか、4名の方が砂防部長賞に選ばれました。

ここに受賞された方の作品を御紹介します。

## 平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール作品応募状況等

区分	福島県内応募数			全国応募数		
	うち福島県砂防協会長賞	うち国土交通事務次官賞	うち砂防部長賞	うち優秀賞受賞者数（※1）		
絵画	小学生	13	2	1	899	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=11
	中学生	7	1	1	472	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=11
ポスター	小学生	22	2	1	1,504	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=11
	中学生	52	3		1,863	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=11
作文	小学生	3	2	1	364	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=10
	中学生	3	1	1	383	大臣賞=1、次官賞=3、部長賞=10
計	小学生	38	6	3	2,767	大臣賞=3、次官賞=9、部長賞=32
	中学生	62	5	1	2,718	大臣賞=3、次官賞=9、部長賞=32
総計		100	11	4	5,485	大臣賞=6、次官賞=18、部長賞=64

（※1）大臣賞は国土交通大臣賞、次官賞は国土交通事務次官賞、部長賞は砂防部長賞

平成19年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター  
・作文コンクール受賞作品（絵画・版画の部）



**賞** 国土交通事務次官賞  
郡山市立明健中学校 1年  
こばやし せい か  
小林 聖香さん

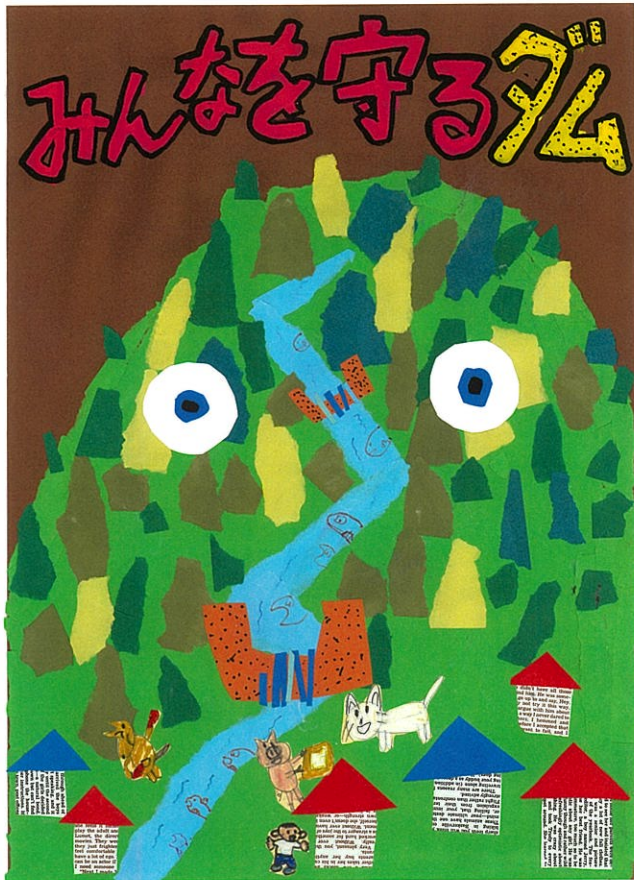


**賞** 福島県砂防協会会長賞  
郡山市立行徳小学校 5年  
おか べ けん たろう  
岡部賢太郎さん



**賞** 砂防部長賞  
郡山市立行徳小学校 4年  
すずき む げん  
鈴木 無限さん

平成19年「土砂災害防止」に関する  
 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（ポスターの部）



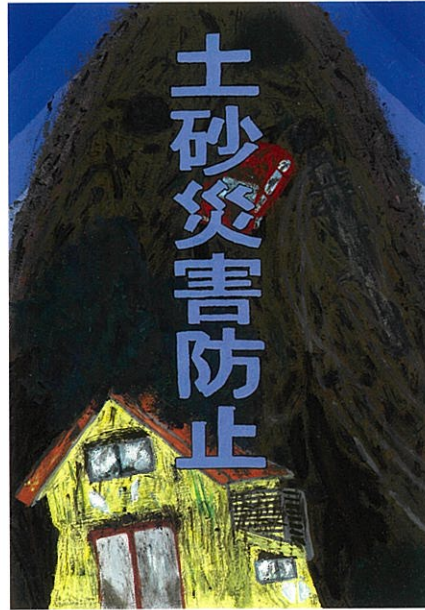
賞 砂防部長賞  
 会津美里町立藤川小学校 5年  
 山浦 憧さん



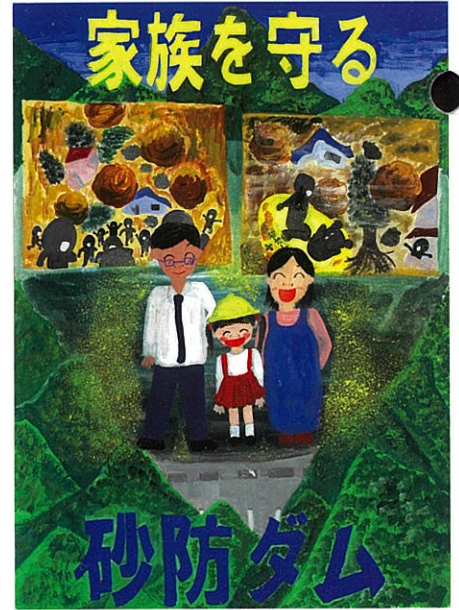
賞 福島県砂防協会会長賞  
 いわき市立中央台南小学校 3年  
 佐藤 眞理さん



賞 福島県砂防協会会長賞  
 相馬市立向陽中学校 2年  
 今村 有香さん



賞 福島県砂防協会会長賞  
 相馬市立向陽中学校 2年  
 泉井 由菜さん



賞 福島県砂防協会会長賞  
 会津美里町立高田中学校 1年  
 松本 奈美さん

# 平成19年「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（作文の部）



## 砂防部長賞

### 「土砂災害について」

須賀川市立長沼中学校（2年）

高久 陽海さん

雨。私達からすれば草木を育て、大地を潤してくれる大切なものです。でも、それが多量になると災害を引きおこし、私達をまきこむと大変な事がおきてしまいます。

私はテレビなどでしか土砂災害に関する事を見た事はありません。それに今までは、土砂災害とはどういう事なのか、あまりよく理解が出来ていませんでした。

でも、調べてみると、土砂災害とは大雨などの後に土石流や、がけ崩れ、地すべりなどを指すという事が分かりました。最近では集中豪雨の回数が増えていてそれに伴い、土砂災害も増加しています。

一瞬にして全てがのみこまれてしまう土砂災害にはいろいろな注意が必要ことが分かりました。日本は降水量が多く山がたくさんあるために、一次災害だけでなく二次災害をひき起こす可能性もあります。

今までに起きた災害事例では1982年の長崎豪雨災害で121人のうち90パーセントの人が土砂災害の犠牲になりました。地震で、斜面がゆるむとがけ崩れがおこりやすくなり、最近では新潟中越地震でも、がけ崩れで死亡した人が多くありました。また、ここ三年間では全国で117名の人々が犠牲になっているそうです。それを考えると土砂災害とはとても恐ろしく、怖いものだと思えます。

家族や友達や大切な人を土砂災害などの災害で失いたくはありません。また、今まで大切にしていた宝物、アルバム、思い出の本、自分が今、住んでいる家、毎日通っている学校。全てのを失ってしまうことになりま。それを失ってしまう悲しみは私が思っている以上に、そうとう大きなものだと思います。

だからこそ私達は、土砂災害の被害を、最小限にへらすよう、大切な

命がこれ以上失われないう、考えなければなりません。一人一人が、土砂災害の恐怖にさらされることなく、ふつうの生活が送れるようになってほしいと思います。

では、どうしたら災害は少なくなるのでしょうか。最近ではいろんなお店でも地震による災害や、土砂災害が起きたときに活用するグッズをよく見かけます。

でも、私達に出来る事はまだまだあり、グッズを買っておく事だけではありません。例えば木の伐採により山肌が顔を出してそこに雨が降ると土がゆるみ、災害へと進んでしまうのです。また私達にも出来る事はたくさんあると思ひ調べてみました。すると、身の周りの危険箇所をきちんとおさえておくことが大切だとわかりました。福島県は災害が少ない県と言われていますが、私が住んでいる須賀川市だけでも、400ヶ所ほど土砂災害危険箇所があります。また、気象予報をしっかりとチェックしておくことも私達に出来る一つの方法といえるのではないのでしょうか。またチェックだけでなく避難場所を確認しておく事でいざというときにすぐ行動できると思います。それに、災害の前ぶれを知っておく事も大切です。例えば、がけ崩れの前ぶれは家の周りの樹木が揺れたり傾いたりして知らせてくれます。家近くにがけがある人は小石がパラパラおちてきたり、斜面から水がわきでてきたり、斜面にひび割れができておに早く気付けるはずで。でも、つねにこんな現象と同じ前ぶれが見られるわけではありません。こうした経過をへる事なく、一挙にがけ崩れが発生する場合があります。だからこそ常に危機感を持ち大雨や地表の変化に注意しなければなりません。

大切なものや、命を守るために安全に避難することはもちろんのこと、住民と行政が協力し合ってがけ崩れや、地すべり等を防ぐ施設をつくっていくことも大事だと分かります。

土砂災害を初めとする自然災害は私達の想像以上に恐ろしいものです。どうすれば防ぐことができるか常に念頭に置き私達が安全に住める豊かな町作りを心掛けなくてはならないと思います。一人一人が災害についてきちんと向き合い、考える事がもっとも大切です。自然災害を最小限に減らせるよう日々のちょっとした気づきと行動が、とても重要だと学ぶことができました。

土砂災害の起きる前ぶれには、山がうなるようにゴゴゴゴと音が鳴った時、川の水がにごって木などふだん流れないものが流れる時、雨が降っているのに川の水が減っている時、地面がひび割れたり一部分がもり上がったりしている時、井戸水がにごっている時、しゃ面から水がわき出た時、がけから小石が少し落ちてきた時、がけから水が出てきた時など、九つの前ぶれがあります。ふだんからこれらの前ぶれを頭に入れておけば、ひなんしやすく、命を落とすような危険は回ひできると思えます。

土砂災害を防ぐにはいろいろな方法があると思います。まず一つ目は、木を植えるという方法です。コンクリートのかべをつくる方法もありますが、ほくは自然のもので防いだ方がよいと思います。木を植えることは、地球温だん化を防ぐことにもつながるからです。二つ目は、土砂災害が予想されるところに、地すべりを防ぐ工事を前もっておこなっておくという方法です。地すべりの原因となる地下水を取りのぞくため、はい水トンネルをつくったり、雨水などが地面にしみこまないように水路をつくったりしておく、集中ごう雨があっても大じょうぶだと思ひます。

ほくは、土砂災害はこわいと思ひました。土砂災害は、全てを破かいし、時には人の命までうばってしまうからです。土砂災害は、木を切り、山をくずして住宅や道路をつくった人間に対するけい告かもしれせん。これからは、できるだけ自然をこわさず、いろいろな防止方法を実ししてほしいと思ひます。



## 砂防部長賞

### 「土砂災害について」

いわき市立中央台南小学校（5年）

折原 汰一さん

去年の夏休み、国土交通省へ見学に行った時、ほくは、土砂災害の体験車に乗りました。その中には15人くらいの席があり、前には大きなモニターがあって、えい画のようなものが流れました。スリーディー眼鏡をかけたので、えい像が飛び出るように見えました。体験車の中は、土砂災害の時のにおいまで再現されていたので、自分自身が本当に土砂災害にあった感じがしました。えい画の内容は、ふつうに暮らしている家族が、ある日大雨におそわれ、土砂災害にあうという話です。妹の女の子が川の水が減ったと言ったので、家族全員がひなんし、土砂災害からのがれることができました。

土砂災害には、種類が三つあります。一つ目は土石流、二つ目は地すべり、三つ目はがけくずれです。このえい画の災害は、まず地すべりが起きて川の水をせき止め、貯まった水におされて土石流が発生するというものでした。地すべりは、比かくのゆるやかなしゃ面において、地中のねん土そうなどのすべりやすい面が地下水のえいきょうなどですべり落ちるのが原因です。土石流は、谷やしゃ面などに貯まった土、石、砂などが、ごう雨によって水と一しょになり一気に流れるのが原因です。

## 平成19年「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（作文の部）



### 福島県砂防協会会長賞 「高野の家のこと」

いわき市立中央台南小学校（3年）  
出村 暁葵さん

夏休みになる前の週の日曜日に、お母さんが、「ひさびさに、高野に  
行ってみようか。」と言ったので、わたしは、（高野ってどこだろう。）  
と思いました。お母さんとお姉ちゃんと妹とわたしの4人で出かけまし  
た。

家を出発してから20分くらいで、いわき市内ごうの高野町という所に  
着きました。ここは、わたしが生まれる前に住んでいた家なのだそうで  
す。家のまわりは草だらけでしたが、家の中はけっこうきれいでした。  
まどの外には森が広がっていて、わたしの好きなカブトムシやクワガタ  
ムシがたくさんいそうな感じでした。遠くをながめると、わたしが今住  
んでいるいわき市中央台にあるいわき明星大学のたて物や海が見えまし  
た。

ふと下を見ると、家のななめ下の土手の所が大きくけずられています。  
わたしは、なんだかふしぎに思って、お母さんに聞くと、「それは、ず  
いぶん前のてっぼう水のあとよ。」と教えてくれました。

大雨がふった時に、雨水や地下水がなにかにせきとめられて1ヶ所に  
集まり、一気にせきを切ってはげしいきおいで流れおちてくる「てっ  
ぼう水」がここでおきたのだそうです。お母さんにくわしく話を聞くと、  
てっぼう水がおこる前は、ずっと雨がはげしくふっていたそうです。そ  
の時、急にドーンというすごい音がなりました。お母さんは、近くにか  
みなりが落ちたと思ったそうです。少ししてから、わたしの家に人がた  
ずねてきて、「道ろが土砂でうまって車が通れないので、なんとかして  
くれないか。」と言ってきて、はじめててっぼう水があったことがわか  
りました。わたしの家の下を通っている道は、水といっしょに流れてき  
た土砂でかんぜんにうまってしまっていて、車が通れないばかりか、人  
が通るのもきけんな感じだったそうです。お母さんは、急いでけいさつ  
と消ぼうと地元の農ぎょうにれんらくをしたり、仕事に行っていたお父  
さんに早く帰ってくるように電話をしたりしました。土砂でふさがれた  
道は、帰ってきたお父さんが、そこうからあふれ出ている水をり用し  
てすべてとりのぞきました。次の日には、農ぎょうの人が来て、道ろを  
もと通りに直したそうです。山の上の方の木をたくさん切ったことが原  
いんらしいと、お母さんは言っていました。山に木がたくさんあると、  
ちゃんと根をはってちょっとぐらいの雨ではびくともしないけれど、  
木の根が急に切られてしまったので、こんなことがおきたのだそうです。

わたしの今住んでいる近くにも木がたくさんはえています。わたしは、  
木がはえているのは当たり前だと思っていました。けれど、いつも見て  
いる木たちが、実はとても大切な役目をしていることがわかりました。  
木は、わたしたちを守ってくれていると思いました。

## 「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み

### ○目的

近年の異常気象により局地的な大雨が多発、全国各地で土砂災害が頻発し、福島県内でも平成19年に71件の土砂災害が発生しています。

このようなことから、小学生を対象に、子供達の住む地域に予想される自然災害（土砂災害）から身を守るため、「土砂災害の恐ろしさ」や「災害を防ぐための仕事」、「ふだんから注意しなければならない自然現象」などについて正しく理解し、土砂災害による被害を最小限に食い止めるためにはどのようにすればよいかについて学習してもらうことを目的として、本スクールを開催しています。

### ○平成19年度の開催状況

開催年月日	小学校名	対象学年及び参加人数
平成19年6月20日	矢吹町立矢吹小学校	4年生55名
平成19年10月9日	只見町立朝日小学校	5・6年生25名
平成19年10月10日	只見町立只見小学校	6年生24名
平成19年10月25日	昭和村立昭和小学校	5・6年生10名
平成19年11月25日	西会津町立野沢小学校	3～6年生12名
	西会津町立尾野本小学校	
平成19年11月28日	田村市立滝根小学校	5・6年生65名

# 「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み

## ○主な内容

県建設事務所職員及び福島県砂防ボランティア協会が講師となり、下記について実施しました。

### ①ビデオ上映

自然災害（土砂災害）の恐ろしさと砂防事業の概要をビデオで学習しました。

### ②パワーポイントによる説明

「自然災害（土砂災害）とは？」「それを防ぐ仕事」「ふるさとの危険な場所はどこにあるのか？」「土砂災害から身を守るためにどんなことに気をつければいいのか」について説明しました。

- ・自然災害（土砂災害）ってなあに？
- ・土砂災害を防ぐ仕事
- ・地域の危険箇所と砂防事業の例
- ・土砂災害から身を守るために

### ③現地調査

学校の近くの砂防えん堤等を見学し、工事中の作業内容などを体感してもらいました。

### ④感想文の提出

土砂災害やそれから身を守る方法などを聞いて、感想文を提出してもらいました。



福島県砂防ボランティア協会による土砂災害の説明  
(昭和村立昭和小学校)



砂防えん堤建設現場の見学  
(只見町立只見小学校)



建設現場の測量体験  
(只見町立朝日小学校)

「ふるさと安全たんけんスクール」の開催を希望される小学校は、福島県土木部河川港湾領域砂防グループまたは各建設事務所へ申し込んでください。

砂防グループ .....024-521-7493  
県北建設事務所河川砂防グループ .....024-521-7696  
県中建設事務所河川砂防グループ .....024-935-1438  
県南建設事務所河川砂防グループ .....0248-23-1625  
会津若松建設事務所河川砂防グループ .....0242-29-5438  
喜多方建設事務所河川砂防グループ .....0241-24-5725  
南会津建設事務所河川砂防グループ .....0241-62-5329  
相双建設事務所河川砂防グループ .....0240-26-1218  
いわき建設事務所河川砂防グループ .....0246-24-6127

## 砂防ボランティア協会とは？

砂防に精通した方々によるボランティア組織で、「ふるさと安全たんけんスクール」講師の他、砂防施設等点検調査、土砂災害防災訓練への協力などの活動を行っています。

# 土砂災害警戒区域等指定状況(平成20年2月末現在)

福島県では、平成20年2月29日までに、下表の20市町村において453箇所の土砂災害警戒区域等について指定しました。今後は、危険箇所の基礎調査及び土砂災害警戒区域等の指定を進めると共に、指定済の区域における警戒避難体制の整備について進め、県民の安全安心を確保してまいります。

指定箇所	指定区域数		自然現象の種類			
			土石流		急傾斜地の崩壊	
	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域
いわき市	109	99	52	43	57	56
白河市	32	25	16	9	16	16
相馬市	23	17	11	6	12	11
二本松市	40	32	25	17	15	15
田村市	17	14	4	2	13	12
南相馬市	8	8	2	2	6	6
川俣町	25	23	15	13	10	10
天栄村	45	39	22	16	23	23
只見町	23	11	20	8	3	3
南会津町	8	4	6	2	2	2
西会津町	27	22	16	11	11	11
猪苗代町	1	1	1	1	0	0
柳津町	29	24	8	4	21	20
西郷村	16	10	10	5	6	5
泉崎村	5	4	1	1	4	3
中島村	1	1	0	0	1	1
矢吹町	8	8	0	0	8	8
三春町	18	16	4	2	14	14
富岡町	17	16	3	3	14	13
川内村	1	1	0	0	1	1
計	453	375	216	145	237	230

## 編 集 後 記

「砂防ふくしま(第18号)」をお届けします。

平成19年は、災害の多かった平成18年に続き、がけ崩れ、土石流で人家に多くの被害をもたらす災害が多数発生し、被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

年々予算が厳しいものとなる一方、安全安心の確保が重要な課題となっており、ソフト対策の重要度がますます高まっています。皆様といっしょに土砂災害警戒避難体制の強化を図ると共に、従来のハード対策も推進してまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

これからも充実した「砂防ふくしま」を目指しますので、皆様のご意見、ご要望をお寄せください。